

# セルゲイ・プロコフィエフ 生誕135周年(2) バレエ・リュス作品『鋼鉄の踊り』

会期／2026年5月29日(金)～9月13日(日)

(※休館日はwebでご確認ください)

企画・構成／関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

2026年は、20世紀を代表する作曲家セルゲイ・プロコフィエフ(1891.4.23-1953.3.5)の生誕135周年にあたります。常設展では、プロコフィエフが手掛けたバレエ作品の資料をシリーズでご紹介します。第2回は、バレエ・リュス作品『鋼鉄の踊り』(1927)。構成主義芸術の影響を色濃く受けた舞台美術と衣裳、そして、機械的な都市のエネルギーを描写する音楽に彩られた斬新な作品世界を、どうぞお楽しみください。

## セルゲイ・プロコフィエフ (Sergei Prokofiev 1891-1953)



ロシアの作曲家。ウクライナで幼少期を過ごした後、母に見出され13歳でサンクトペテルブルク音楽院に入学、アナトーリ・リャードフ、ニコライ・リムスキー＝コルサコフらに師事。1914年に渡欧、イーゴリ・ストラヴィンスキー、モーリス・ラヴェルらの作品に接する。バレエ・リュス団長セルゲイ・ディアギレフに『ピアノ協奏曲第2番』(1912-13)を認められ、自身初のバレエ音楽『アラとロリー』(1914-15)を作曲するが、バレエ・リュス作品としては採用されなかった(1927年、マックス・テルピスがベルリン歌劇場で上演)。

ディアギレフはプロコフィエフを「第二の息子」(「第一の息子」はストラヴィンスキー)と呼んだとされ、『道化師』(1921)、『鋼鉄の踊り』(1927)、そしてバレエ・リュス最後の作品『放蕩息子』(1929)など、後期バレエ・リュスを代表する作品が生み出された。プロコフィエフはその後も、『ロミオとジュリエット』(1938)、『シンデレラ』(1945)、『石の花』(1954)など数々のバレエ音楽を発表。ストラヴィンスキーと並ぶ、20世紀最大のバレエ作曲家として位置づけられる。

## 『鋼鉄の踊り(または歩み)』(1927) 全1幕2場のバレエ

- 【初演】1927年6月7日、サラ・ベルナル劇場(パリ)
- 【音楽・台本】セルゲイ・プロコフィエフ
- 【指揮】ロジェ・デゾルミエール
- 【振付・出演】レオニード・マシーン
- 【美術・衣裳・台本】ゲオルギー・ヤクーロフ
- 【出演】アレクサンドラ・ダニロワ、セルジュ・リファール他

ディアギレフは、革命を経てソヴィエトとなった祖国の変貌に深い関心を抱いていた。社会主義による「新しい生活」を題材とする『鋼鉄の踊り』の作曲を依頼されたプロコフィエフは、美術家ヤクーロフと共に、次のような構想を練った。

「私たちは想像をめぐらした。舞台には、ハンマーや斧をもった労働者たち、回転するはずみ車、トランスミッション、点滅する信号……。バレエの第一場はツァー体制の崩壊を描く—労働者たちの集会、人民委員の演説、闇物資を満載した列車、食糧を得るために持ち物を売るかつての公爵夫人、革命派の水夫、宿なし。第二場は社会主義の建設を描く。新しい工場が建ち、昨日の水夫が労働者になり、等々……。」

(リチャード・バックル著、鈴木晶訳『ディアギレフ：ロシア・バレエ団とその時代(下)』リプロポート、1984年、210頁)

舞台は革命期ロシアの駅から始まり、船乗りの青年と労働者の少女の恋を軸に展開する。第二場の工場では、離れ離れになった恋人たちが再び結びばれ、労働者たちから祝福される。工場の轟音のような管弦楽の反復とクレッシェンドにあわせて照明が点滅し、滑車が回転する中、ダンサーたちは機械のようなリズムで力強く働き、踊る。機械文明と集団のエネルギーを描き出すプロコフィエフの音楽は、構成主義的舞台と結びつき、モダニズムの熱気を鮮やかに体現した。

パリの新聞は「ポリシェビキのデモンストレーションだ」と批判し、ディアギレフ自身も白系ロシア人による襲撃を警戒していたという。しかし実際には、わずかな野次を除けば観客は大喝采を送った。『鋼鉄の踊り』は、バレエ・リュスの同時代性を象徴する作品として、歴史にその名を刻んでいる。2005年には米国プリンストン大学にて、史料に基づく復元(再構成)上演が実施された(監督：サイモン・モリソン/復元振付：ミリセント・ホドソン、ケネス・アーチャー)。

## 主な出展資料

- ◆ PRBROF-19 バレエ・リュス公式プログラム／1921年5月／ゲテ・リリック劇場  
(アンリ・マティス画 セルゲイ・プロコフィエフ肖像画)
- ◆ PRBROF-29 バレエ・リュス公式プログラム／1927年12月／パリ・オペラ座
- ◆ PRBROF-32 バレエ・リュス公式プログラム／1928年6月／サラ・ベルナル劇場
- ◆ AB-10 限定書籍／『セルジュ・リファール』／画：アイリーン・メイヨー／イギリス／1928年



- ◆ 参考：プリンストン大学での復元上演(2005)

<https://youtu.be/P2dTpPFGF84?si=uTz4s0E6am4ifUR>



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用